

（生殖力測定制度）

（トラック① 生殖力測定の告白試験）

（中・中）

ふむ…

わざわざ勤務時間中に、

学園の教師である私を呼び出して、

何かと思えば……告白、ですか。

（ため息）

勤務中ですので、

できれば手短にしていたけると助かります。

そもそも、

私はこの学園の教師で、

あなたは生徒。

立場上、お付き合いすることなど

現実的にはあり得ません。

それに、私は無口で無表情、

事務的にしか物事を進めない女ですよ？

そんな女と交際しても、

楽しい時間など、まず期待できないはずです。

……ふむ、そう来ましたか。

ずいぶんな口説き文句ですね。

「顔が可愛くて、知的で、

その冷たいところに惹かれました」などと。

おまけに、

「おっぱいは田カップ程度でも我慢します」だなんて。

ずいぶんと大胆な発言ですね。

（冷やかに・怒り）

……ひっぱたかれましたか。

（中・中）

ふむ。……まあ……

真剣な顔なのは認めましょう。

熱意だけは伝わりました。

ですが、

先ほども言った通り……

私はこの学園の教師、

あなたは生徒。

基本的に、交際など

社会的に絶対に認められません。

ただし……

唯一の例外が

——「生殖力測定制度（せいしよくりよくそくていせいど）」です。

……では、出してください。
ん？

聞こえませんでしたか？

おちんちんを、「出してください」という
意味ですが

まさか、制度の存在を

知らないわけではないでしょうね。

授業でも繰り返し説明しているはずです。

現在のこの国は、極度の少子化。

だからこそ、国民全員に

生殖力の測定が義務付けられています。

男性器は根元から先端まで
〇.1ミリ単位で厳密に計測。

硬度、亀頭の形状、
そして射出される精子の量や粘度――
すべてが記録され、
性器には▽から□の階級が与えられる。

○ランクは
十二〜十五センチ程度。

そして△ランクともなれば、三十センチ以上。
単なる大きさではありません。
「種を残す力」として、
国家に認められた存在なのです。

当然、階級には絶対的な意味がある。

○ランク以下の貧弱なちんぽでは、
どれだけ中出ししても受精率は低い。
けれど△ランクのデカちんぽならば…
子宮を突き上げ、
女を孕ませる可能性は
桁違いに高い。

――つまり、デカいちんぽの持ち主こそ、
社会の頂点に立つ「特権階級」なのです。

Aランクの男性には例外が認められる。
たとえ私のような教師であっても、
命じられれば抗えない。

「性交を許可しろ、中出しさせろ」
そう命じられれば、
私たち女性側は従うしかありません。

それが、この制度。

▽ランクの特権ちゃんぽは

国家から保証された“支配者”であり、
逆に▽ランクの粗チンは、
交際も性交も禁止される――

ただの廃棄対象にすぎないのです。

だからこそ、

私はあなたに問うのです。

（左・密着 ささやき）

その生徒のおちんちんが、
本当に▽ランクに値するのかどうか。
証明してみなさい。

（中・中）

ほーら、

ですから出さない。

学園の教師に告白してきた以上、
当然それなりのものを持っているのでしょうか？

今すぐおちんちんを出して、

私と真剣に交際できるほどの

「△ランク候補」かどうか、証明してみなさい。

ほら、ほら、ほら。

（呆れたため息）

……ふむ。

はああ…

これがあなたの全力ですか。

測定すら不要ですね。

目算で――の。センチ。

角度までついて、まさかこれで勃起状態ですか？

私を呼び出して、
期待させておいて…

こんなザコちんぽを
突き出してきたのですか。
気持ち悪い。

この程度で交際？
あり得ません。制度上も、感情的にも。

（言い返されて）
はあ？
勉強だけはしているようですね。

確かに低ランクでも、
自慰行為の練度（れんど）によっては
評価を引き上げられる特例があります。

ですが——あなたのこれはどう見ても
四ランクの“廃棄対象”です。

性交権剥奪、結婚禁止。
金玉に溜めた精子は、
国に提出し廃棄される義務がある。
それが雑魚ちんぽの末路です。

……まあ、制度は平等ですからね。
物は試し。
そのゴミちんぽ、今ここで扱いてみなさい。
もし、素晴らしい自慰行為が
できるのであれば、ランクの加算も認めましょう

（中・近）
ほら、シコレ。
シコレ、シコレ。

指でつまんで上下にゴシゴシ。

あまった皮を、

シヤカシヤカ擦って、

ちんぼの先から

情けない汁がにじむのを

先生の目の前でさらしなさい。

ほら——ゴシ、ゴシ、ゴシ。

エロい音を立ててみなさい。

ふふ

そうです、それでいい。

見ていて滑稽ですね。

親指と人差し指の二本で

やとつまめる程度のサイズ。

情けない上下運動。

（冷笑して）

これがあなたの全力オナニー？

女のまんこに入れたら……

即、空回りして終わるでしょうね。

さあ、もっと腰を震わせて。

もっと自分の価値を、

示してみなさい

さもなくば

廃棄精子を先生の前で

射精して、終わりにしますよ

ほら、出せ。

ほら、シコレ。

四ランクの負け犬らしく、

ゴミ精子をひねり出して見せなさい。

(中・近)

ほーら

……粗チンに唾を吹きかけてあげますよ。

(つば吹きかけ)

じゅる……んっ、

ぺっ！

ほら、

私の唾でベタベタにされたザコちんぽ。

どうしました？

自分の体温より熱い女の唾液で

濡らされただけで、

ぶるぶる震えて

そちんが……ピクピク跳ねてますね。

(冷笑)

あらあら……必死に耐えて、

まるで「自分は強いオスだ」とでも

ちいさいチンポ、シゴキながら

アピールしているつもりなんですか？

ふふ……

惨めすぎて笑えますね。

見てくださいよ、

もう先っぽ、

テカテカに濡れてヌルヌルさせて。

これで強いフリ？

ただの発情ザコちんぽでしょうに。

……ほら、シコレ。

睡でヌルついた情けない粗チンを、

もっと、もっと、必死に扱け。

ズリッ、ズリッ、ズリッ……ほら音を立てて。

聞こえますよ？

このみっともない水音。

「オスらしく耐えてます」なんて顔をしながら、

実際は私の唾とあなたの

先走り汁が混ざり合って――

ズリズリ、ズリズリ、

ただの

“Eランクの負け組ちんぽ”の
しこしこ音を響かせてるだけ。

（嘲り）

強いオスを気取っても、

所詮は“Dランク廃棄物”ちんぽ

……それが

あなたの現実なんですよ。

（小さく吐息）

……ほら、

イキそうなんでしょう？

歯を食いしばって、

必死に我慢してる顔。

そんなに私と交際したいのですか？

でもね

あなたのDランクちんぽとの

未来はありません。

せいぜい、

先生の唾を浴びて、

情けなくびゅっびゅと

精子を廃棄するしかない

ザコちんぽとのお付き合いなんて
お断りです

（冷酷に囁き）

ほーら、出せ。

ほら、射精しろ。

先生の睡で

ピカピカにされたザコ粗チンから、
一滴残らず、しぼり出せ。

はーい

射精…

びゅるっ、びゅるるっ……

ふふ

しょぼい音立てて……

腰までガクガク震えて。

ザコちんぼの先っぽを

先生の顔に向けて

たったの0.5ミリしか出ない精子で、
私の顔を汚す気だったんですか？

（鼻で笑う）

はぁ

……ほんと、ぎっしり。

これで交際希望なんて、
笑わせないでください。

（冷笑）

小さい、弱い、少ない。

三拍子揃った最低ランク。

……あなたの存在意義は、

こうやって女に笑われ、バカにされ、

「劣等感」を刻み付けることしかできないんですよ

(中・中)

もう……結果は見えていますね。

交際の申し込み？

もちろん、答えは…ノーです。

あなたのロランク粗チンによる告白は、
制度により正式に却下。

交際は一切認められません。

(中・遠)

ええ、例外など存在しません。

あなたは一生、下層ランクのまま。

教師とのお付き合いなんて…

夢のまた夢です

辛くても、

これがこの社会の現実です。

受け入れるしかないのです。

……分かったら、

さっさと教室に戻りなさい。

(中・中)

これから私は教員として、

制度の残酷さを、

そしてロランクの惨めさを、

たっぷりと“教えて”あげます。

(左・密着／ささやき)

——忘れないでね。

あなたはちっとも強いオスじゃない。

ただの、最底辺ちゃんぽ

……でも安心して。

先生がしっかり「お・し・え・て」あげますからね

(トラック②期測定とマゾ疾患診断)

(だるそうに教師が保健室にやってくる)

(中・中)

ふむ……

測定室で女生徒たちに

クスクス笑われているのが誰かと思えば、
やはりあなたですか。

……見事に晒し者ですね。

こちらの記録を見れば一目瞭然。

おちんちんの測定値——5.2センチ。

学園の全訓練生の中で堂々の最下位。

……誇れるのは

“最小”という称号だけでしょうか。

(冷笑)

というより、

前回私が

測ったときよりもさらに縮んでいるじゃないですか。

普通は訓練で成長するはずなのに

……あなたの場合は逆成長。

努力の方向を間違えると、

ここまで惨めになれるのですね。

ん？

毎日先生のことを思って

シコシコ鍛えているから、

サボってはいませんか？

……その結果がこれですか？

おちんちんが勝手に小さくなる訓練法なんて、聞いたことがありません。

しかし嘘は言ってるように
思えないのに妙ですね…

（紙を見ながら）

ふむ

なるほど

……“哀れな才能”だけは優秀なようですね。

（中・近）

結果として

“マゾ疾患”が発症しているようです

粗チンで、

△ランクの特権階級を妬む

ゴミちゃんぽ保持者は、

やがて“いじめられないと立たない”

マゾに堕ちる傾向がある……

典型的な進行例があなたというわけです。

（皮肉っぽく）

羨ましいですね。

普通の男は勃たない状況でも、

あなたは罵倒され、

笑われ、

女に見下されることで

——立派にビンビンになれる。

……制度的には“完全に排除対象”になりますが…

（中・中）

良いでしょう。

教師として責務を果たします。

あなたのマゾ疾患がどれほど進行しているか、
しっかり測定してあげます。

……ほら、粗チンを出しなさい。
“最低ランクにふさわしい試験”を
させて貰います

（中・近）

ふむ

情けない半勃起……

たったそれだけしか膨らまない

ゴミちゃんぽ、

今から私が直接、

手コキで“公開試験”開始です。

（冷笑）

ええ、

もちろん扱きながら——徹底的に罵倒します。

普通の男性なら屈辱に耐えきれず、

恥ずかしさで萎えてしまうのが当然です。

……でも、

あなたは違うでしょう？

女に罵られて、

見下されて、笑われて……

それで勃ち続ける、

最低のマゾ疾患持ち。

（中・中）

制度に照らせば、

罵倒されて射精するなど本来

Eランクでも“ありえない反応”です。

けれどあなたのちゃんぽは……

罵声のご褒美、屈辱が栄養。

女に罵られるたびに、
びゅーびゅー精子を漏らす。

(冷酷に囁き)

ふん……

もし本当に射精したらどうなるか、
わかっていますね？

(左・密着 ささやき)

それは“異常反応”と診断される。

即、施設送り。

その情けない四ランクちんぽは切除、廃棄。

あなたは“

生殖不能のゴミ”として登録されるんです。

(左・近 ささやき)

(強く握り込み)

さあ、

シコシコ……チェック開始です。

罵倒されながら、耐えられるのか。

それとも……たっぷり笑われながら、

一番惨めなザーメンをぶちまけて、終わるのか。

(中・近)

ほーら、

ちんぽを握ってください。

……まあ、何ですかこれは……

先ほどよりも、

わずかに膨らんでいるようですが……

他の女生徒に晒されて……

担任である私に直接ちんぽを握られて、

興奮してしまうとは……本当に救いようがありませんね。

(きつめに握り込みながら)

人差し指と親指で摘まめてしまうような、

このチンカス以下の粗末ちゃんぽ。

ゴシ、ゴシ、ゴシ、ゴシ……

ほら、音だけは立派ですが、

実態はただのゴミ棒ですね。

ふむ……本当に小さい。

私も教師を務めて数年になりますが、

これほど惨めなクソちゃんぽは

見たことがないです

四ランクの中でも最下層、

五センチ台前半。

もはや「男性器」などと

呼ぶことすらおこがましい……

ただの皮あまりのくず肉…

このような腐れちゃんぽ、

存在していること自体が罪ね。

想像してみます。

こんなゴミちゃんぽでは、いくら女のマンコに突き入れても、

入口でカサカサ擦るのがやっと。

女を喜ばせるどころか、

「不快感」しか与えられないお粗末そちん。

要するにあなたは——

一生オナニーにしか使えない、

恥さらしのザコちゃんぽね。

早く切り取って、

国に廃棄していただいたほうが、
よほど社会のためでしょう。

（手の動きを速めて）

ほーら、シコ、シコ、シコ。

……あら？ もう金玉をぶるぶる震わせて、
射精しそうなんですか？

大好きな先生に見つめられ、
罵倒されながら扱かれて、
情けなくビクビクして……最低ですね。

本来なら、罵倒されれば萎えるはず。

それなのに、

あなたは罵倒されて
早漏ちんぽびくつかせて、イキ急ぐ――

だからこそ、

マゾ疾患の廃棄対象なのです。

ですが、よろしいでしょう。
制度は平等ですから。

今からあなたのそちんを
何度までも逝かせます。

そちん射精を見せてみなさい。

（中・近／金属音Sを意識させて）
さあ、

この金属トレーに
ザコ精子を全部吐き出してください。

ひねり出すしか能のないクソザコちんぽから、
一滴残らず廃棄精子を垂れ流さない。

ほら出せ、ほら出せ、ほら出せ――

この社会で最も無価値な粗チンとして、
公式に記録して差上げますよ。

ほーら

だーせ

（中・近）

ああ……出ていますね。

ザコ精子が、

ぴゅっ……ぴゅるっ……と、

情けない音を立てながら飛び散って。

（鼻で笑い）

それで？

これで

全部ですか？

たった数滴。

量にして――0.5ミリリットル未満。

顕微鏡で覗かないと確認できないレベルです。

ほら見なさい、

ちんぽの先からチヨロチヨロと垂れるだけ。

金玉をぶるぶる震わせて

必死に搾り出しても、

この程度しか出せない。

……本当に、みじめですね。

（冷笑）

そんなゴミ精子、

捨てられるに決まっているでしょう？

それなのに、顔を真っ赤にして、私に見せつけて、

必死に腰を突き出して。

……滑稽です。

自分が種を残せる男だと勘違いして、ザーメンをひねり出すロランク粗チン。

見れば見るほど

——社会の生ゴミですね。

(中・遠／冷たく突き放す)
いいですか。

あなたの精子は
繁殖には一切使われません。

この制度においては正式に
“廃棄物”です。

……だから安心して
「何度でも」出さない。

あなたの役目はただ、
笑われながら精子を捨てることだけですから。

(中・近)

ほーら、

まだ続けますよ。

繰り返し射精できるかどうかも、
評価の項目に含まれていますからね。

ロランクの粗チンは、
制度に従って何度でも酷使される運命なのです。

(手コキを強めて)

ちんぽをゴシゴシ扱きながら、

私はあなたの情けない姿をしっかりと見えています。

ほら、しっかりと想像してください

他の女生徒は…

心の中ではこう思っているのですよ。

(左・近々さやき気味)

「このちんぽ、いくらセックスしても女は気持ちよくなりたげな」

「田ランクちんぽとSEXしても、ただ惨めなだけ」

「突っ込まれる側にとっては、ただのバツゲーム」

そう考えながら、

私はこの小っちゃな肉片を

見つめているのですよ

(吐き捨てるように)

あなたは

この前聞いてきましたね

私の性交渉の経験を…

お答えしましょう。

性交経験はありません。私は処女です。

ですが

——こんなゴミちんぽで満たされるわけがないことくらい、
容易に想像できるのです。

「こんなちんぽでおまんこを汚されるなんて絶対に嫌」

「絶対にこんなザコとセックスしたくない」

……それが、先生の心の声です。

(扱く手を加速させて)

ふいふい、

そんな本音を耳元で囁かれて、必死に我慢しているようですが……

ほら、見なさい

もうビクビク痙攣して、勝手に出そうになっている。

（軽蔑を込めて）

やれやれ

……セックスを断られただけで、

ビュルビュル追加ザーメンを漏らすんですか？

最低ですね。

女に拒絶されることが、

この四ランク粗チンにとって最高のご褒美だなんて――

……あなた、

本当にどうしようもない変態です。

（中・近）

ほーら

……まだ終わりではございませんよ。

射精したばかりで、

ヒクヒク痙攣しているゴミちんぽを――

さらに、

ゴシゴシ、ゴシゴシ、ゴシゴシ。

ほら、

いやがって腰を引こうとしても無駄です。

制度上、

あなたのザーメンは最後の一滴まで

“廃棄”しなければなりませんから。

（冷笑）

なんですか？

「やめて、射精したくない？」

ふう

……それが

“ロランク専用のお決まりの泣き言”なのです。

情けないちんぽを震わせながら、

先生にしごかれるだけで

ビュルビュルと追加で漏らす……

——やはり典型的なマゾ疾患ですね。

(ゴシゴシを強めて)

ぐちゅぐちゅ……

ぐちゅぐちゅ……

聞こえますか、この水音。

私の手に絡みつくのは、

価値のない残りカス精子と、

あなたの金玉の哀れな悲鳴。

(中・中)

もう、我慢汁を大量発射して

まだピクピク震えて小さな脈動を繰り返す……

本当に見苦しい。

「これ以上出せば評価が上がる」

とても勘違いしているのですか？

逆です。

出せば出すほど、

ゴミちんぽの証拠が積み重なっていくだけ。

(左・近／ききやき)

先生の心の中では、

こう思っています。

——“あなたちんぽの存在意義は、皆無”

——“交際？ 結婚？ 性交？ 全部禁止。許されるのは見世物オナニーだけです”

……そうやって「惨めさ」を心に刻まれ、
私たちの前で笑う者にされる未来しか、
あなたには残されていないのです。

（冷酷に吐き捨て）

さあ、出してください。
廃棄物のザコちゃんぽ。

一滴残らず絞り出され、
学園の最下層として
一生踏み潰されていきなさい。

——出せ。

今すぐ、ここで。

（顔射される）

（中・近）

……っああ、
最低……

よりによって先生の顔に

こんなEランクちゃんぽで

“顔射”だなんて、

失礼にもほどがありますね。

……あなた、
本当に迷惑です。

……顔射というセクハラをした以上、
これも“記録”として残しておきます。

（中・中／事務的に）

はい、測定用紙に記入。

Eランク、粗チン。

学園内チン長、最低記録を更新。

加えて

——マゾ疾患、重篤な症状アリ。
顔面射精の性癖あり……と

（中・遠）

さあ、この名札を付けなさい。

“ロランク粗チン”

——その恥ずかしい肩書きを胸に、
女子たちからクスクス笑われ、
軽蔑され、

これからの学園生活を送るのです。

（冷酷に告げる）

ええ、これは国の義務です。

粗チンとして生まれてきてしまった以上、
その運命からは逃れられません。

（左・密着／ささやき）

——誇っていいですよ。

あなたは今、

この学園で最も価値のないちんぽ。

その称号を抱えたまま、

一生“笑い者のオナホ未満”

として生きていくのですから。

（トラック③ 露出狂化とオナホ指導）

（ため息をつきながら 中・中）

ふむ……困りましたね。

女生徒たちからのクレームが、

あなたの名前で山ほど届いています。

「放課後になると必ずちんぽを出してシコシコしている変態がいる」――

ええ、

もちろん、あなたのことです。

（冷笑）

おちんぽを鍛えるため？

一人で扱いても勃たなくなった？

女子に笑われてバカにされないと勃起できなくなった？

ふう…

……それは

“努力”ではなく、“病的な露出癖”です。

性犯罪者予備軍として

扱われても仕方ありません。

（中・近）

先生と付き合うために

必死に鍛えているつもりでしょうが、

他人の迷惑を顧みないそのやり方は、

ただの自己満足…

はあ…

で？

結局、成果はどうなのですか？

……ふむ、なるほど。

以前は五センチ台前半だったのが、
いまは5.6センチ。

わずか0.7センチの成長。

（鼻で笑う）

おちんぼを出しまくって、
女子に笑われながら、
その必死の努力の結晶が
—— たった〇・〇センチ。
……涙ぐましいですね。

（中・中）

もちろん、

まだ四ランクの雑魚ちんぽに変わりはありません。

制度上は“廃棄対象”のまま。
ですが

——一応は努力を認めましょう。

方向性は間違っていますが、
愚直にシコシコ続けたその執念だけは、
価値がありますから。

（冷酷に）

……ただし。
あなたがすべきは露出ではなく、
正しい鍛錬です。

ですから、

これからは先生が
“教師”として直接指導してあげます。

——オナホールを使った本格的な訓練です。

（中・近）

ほら、みてください
こーの、“ミニ粗チン専用”の、
中がイボイボだらけでドギツイオナホ。

今日はこれで、

あなたのおちんちんを徹底的に鍛えてあげます。

（冷やかに）

勘違いしないでくださいね。

あなたとお付き合いたいなど、

これっぽっちも考えておりません。

……ですが、

生徒の頑張りを“正しい方向”に導くのも
教師としての務めですから。

（オナホを持ち上げて）

ほーら、

まずは口を大きく開けて

（唾を吹きかける）

……じゅる……

ぺっ。

私の唾液を、

このオナホの中にたっぷり垂らしてあげましょう。

（2回つばをふきかける）

ぺ！

ぺ！

……ほら、

中がヌルヌルになっていくのがわかりますか？

（鼻で笑う）

……あら、

私の唾を見ただけでまた勃起しましたね。

ガチガチに硬くなって、ピクピク震えて。

やはり変態ですね、あなたは。

（オナホを押し当てて）

さあ、この小さなオナホに粗チンを押し込んで――

ズリユツ、ズリユツ、と……

はい、挿入完了です。

ほら、

ズリユ、ズリユ、ぬちゅ、ぬちゅ……

ごし、ごし、

ごし、

小さいちんぽがイボにひっかかって、

痛いのか、気持ちいいのか、

顔が歪んでいますね。

（中・中／冷たく）

ほら、すぐに射精しそうなんでしょう？

でも、すぐに出してはダメですよ。

私が「いい」と言うまで、絶対に我慢しなさい。

早漏雑魚がちろつと漏らしたところで、

ただのそちんが縮む練習にしかありません。

――早漏で出せば出すほど、

あなたのちんぽはどんどん小さくなる。

理解していますか？

（ゴシゴシ強めながら）

ほーら、

（ズリズリ連呼 8秒）

ほら、唾と先走り汁が混ざって、

“みじめな水音”が響いてますよ。

教室中に聞かせたいくらいですね。

（中・近／嘲笑）

わかりますか、自分の顔。

「先生、好き好き」って目で訴えながら、粗チンをオナホでズリズリされて、腰を浮かせて必死。

そのくせもつと欲しそうに

おねだりちんぽして

……本当に浅ましい。

（冷酷に）

いいですか？

もつと耐えてください。

先生にオナホで

扱かれていることが幸せすぎて、

勝手に漏らすなんて許されません。

あなたの役目は――

睡入りオナホで

ギリギリに追い詰められながら、

「出したいのに出せない」苦しみを学び
ちんぽを成長させる事

それが唯一、

四ランク粗チンに許された訓練です。

（やや右・近）

ほーら

……もつと、

強烈な刺激を与えて差し上げますね。

（右・密着／耳舐め）

……ちゅぷっ、ちゅるるっ。

（みみフェラ 8秒）

右の耳を舐めながら

——ほら、粗チンオナホ責め。

先生の手で、

シコシコ、シコシコ……

しっかり

耐えてみせなさい。

（「ザコザコ連呼」耳フェラ 8秒）

（中・近）

わかりますか？

今、あなたの小さすぎるちんぽは、

私の握力全開の手の中で、

オナホ越しに押し潰され、

ゴリゴリのイボに

先端をこすりつけられている。

……ズリユツ、ズリユツ

ほら、

音がいやらしく響き渡っているでしょう？

効いているのが顔に出ていますよ。

吐息が荒くなって、

目はうるんで、

腰はガクガク震えて——

惨めですね。

（右・密着 ゆっくり耳舐め混ぜて冷たく笑いながら）

それにしても……この程度のゴミちんぽで、

「先生のおまんこを使いたい」だなんて、失礼にもほどがあります。

ディルドのほうがよく立派ですし、シリコン製の偽物にすら劣る小物ちゃんぽ。

あなたのような雑魚オスは、性交渉のリクエストすらおこがましい

（さらに強く扱きながら）
ほーら

ゴシ、ゴシ、ゴシ、ゴシ……！

ほら、もっと耐えて
そんなもので、

先生の処女まんこを狙っているつもりですか？

こんな粗末なもので
打ち抜かれるなんて考えただけで、
吐き氣がします。

（中・近／囁き）

……ああ、ゾクゾクしてますね。

私の処女穴は、
本来デッカいちんぽにこそ挿げられるべきもの。

あなたのような

四ランク粗チンに狙われるくらいなら、

むしろイライラして、

お怒りおまんこが火照ってしまうくらいです。

（鼻で笑う）

本当に

……早く切り落としてしまえばいい。

そんな粗チン、ちょん切って、

あなた自身も女の子になってしまえばいいのです。

そのほうが、まだ存在価値がありますよ。

(中・中)

あら

……もうピクピク震えていますね。

先生に責められて、

耳を舐められて、

もう射精したがつているのですか？

でも、まだ許しません。

(冷酷に)

ほーら……想像しなさい。

このオナホを、

私のおまんこだと思って。

そのザコちゃんぽで必死に

こすりつけながら、

結局はEランクちゃんぽは

「出すな」と命じられて

中出しを許容されない

——それが、あなたなのです。

(中・近)

ああ…ピクついてる

でも…本当に小さい。

このちっちゃいちゃんぽで

先生のおまんこを汚そうとするなんて、
最低の発想です。

……吐き気がします。

(右・密着 しゃきしゃき耳舐め)

ほら、シコシコ、シコシコ、シコシコ……。

(ザコ・変態・そちん ランダム耳舐め 10秒)

ふふ

そんな雑魚サイズで

「精子が出る、出る」なんて

……笑わせますね。

出しているはずがないでしょう。

耐えて、大きくしなさい。

耐えて、

せめて人並みのちんぽに育ちなさい。

(中・中／冷酷に)

今から先生がカウントダウンします。

——出してはいけませんよ。

男のちんぽは、

数字を刻まれると無意識に射精してしまうもの。

それを乗り越えられなければ、

あなたのそちんは一生、Dランクのままです。

(左・密着 囁くように)

3……2……1……はい、射精禁止。

(間を置いて)

あーあ

どびゅ、どびゅ、どびゅ、

ふむ……やっぱり出ましたね。

必死に腰を突き出して、

オナホにザーメンをぶちまけて。

「先生のおまんこに中出しイっく〜♡」なんて、
気持ち悪い声まで上げて。

……あなた、本当にどうしようもない変態です。

（中・近／冷笑）

その顔……見ましたよ。

涙目で、

口を開けて、情けない声を漏らしながら精子を垂れ流す。

まるで「廃棄精子製造機」。

これが四ランクの現実です。

（やや右・近）

ほーら……まずは謝りなさい。

オナホからちんぽを抜いて、

先生の前にひびきまじく。

——これが、

あなたのちんぽにふさわしい礼儀作法です。

（中・近／足音＋踏みつけ）

ひびきまじいた粗チン

……先生が足で踏んであげましょう。

ぐっ……

ほら、潰れそうでしょう？

手コキに耐えられなくて

ザコ精子を漏らした四ランクは、

こうして足に踏まれて、

踏み潰されるのがお似合いなんですよ。

（冷笑）

反省できたら

「先生のおまんこ使いたい」なんて、

二度と言わないことです。

こんな小さな肉片に狙われていると思うと、

気持ち悪くて、先生は本当に吐き気がいたします。

——潰れろ、ちんぽ。

(間を置いて)

……ああ、またですか。

足コギされて、またザコ精子をお漏らし？
本当に情けない。

どんどん小さくなって、

完全にダメちゃんぽに堕ちていくだけ。

ゴミ……ですね。

(唾吹きかけ)

ぺ！

はい、

もちろん今のは本音です。

あまりにも気持ち悪いから、

唾を吹きかけたくなったんですよ。

先生としては不快極まりない――

でも、

生徒を見下して唾を吐くのも、

この制度では正しい教育の一環ですから。

(中・中／事務的に)

ほーら、

今日は、

たっぷりおかずをもらえましたよね？

これだけ言葉を浴びせられたなら、

家でもオナニー、頑張れるはずです。

毎日、粗チンを扱きながら、

「いつか大きくなれる」って

しこり続けなさい

(中・遠／冷徹に)

ええ、

ちんぽが大きくなって、

ランク上がるその日まで。

ん？

先生と交際？

そうですね…

条件次第では

…ちよつとは考えてあげてもいいですよ。

(左・密着／囁き)

——ただし、

Aランクのかっこいいちんぽになればですがね…

(トランク④ ▶ランク特権チンポ登場)

(中・遠)

ふむ……今日は特別授業です。

授業として、

▶ランク特権階級の

男子生徒を呼びました。

学園で最も大きなちんぽを

持つと言われている生徒です。

(中・中)

もちろん

あなたの粗チンとは比べ物になりませんが

——比較は必要です。

劣等感を知り、足りないものを突きつけられて、

そこから努力につなげることが、この授業の目的ですから。

（中・近／少し優しい声色）
ええ、確かに。

あなたのちんぽは
以前よりは大きくなりましたね。

のセンチ台から——9.5センチまで。
まだ4ランクですが、
それでも成長は成長です。

努力の証として、
評価してあげましょう。

……そう、その調子で頑張れば、
いつかは4ランクに近づけるかもしれませんね。

（中・遠）
ほら、目の前でご覧なさい。
先生が4ランクの
特権階級おちんぼ様のズボンを下ろします。

ほーら
……ずるり。

（中・遠 動揺してる感じ）
……なにこれ。
目の前で実物を見ると、
言葉が出ませんね。

三十センチ？
いいえ——三十二センチ？

……目算すら追いつかないほどの規格外。
立ってもいないのに、この存在感。
まるで別の生き物です。

(中・近／息を呑んで)

ああ…触れてもいないのに、影が覆いかぶさってくる。

これが——特権階級△ランクの現実。
あなたの粗末なおちんぼとは、
次元が違います。

(間を置いて／羞恥混じりに)

……っあ、やめなさい。

そんな——先生の胸を。

口カッパしかない貧乳を揉んで、
笑うなんて……。

「早く測定しろ」？

生徒のくせに……生意気ですね。
でも…

△ランクの特権階級には教師といえど
…抵抗できないのがこの制度です。

(中・中／事務的に切り替え)

ふむ、

では測定を始めます。

……メジャーを当てて、根元から先端まで。

……三十五・五センチ。

信じられない。

ここまで大きな記録は、
学園史上初かもしれません。

(中・近／囁き)

ふむ…「フル勃起した姿も見たいだろ」

——そう命令されました。

ええ、△ランク様にそう言われてしまえば……
私たち女性教諭に拒否権はございません。

(頭を押さえつけられ)

……っあ、強い……。

頭を押さえつけられて

……フェラを強要されてる…

(中・近／吐息混じり)

ですが、逃げることは許されません

……これから、

私は△ランク様のちんぽを

口で受け入れます。

しっかり見ておきなさい。

あなたの粗チンには

一生許されない行為を、

私は今から強制されるのですから――。

(中・近)

ああ

……なんですか、この大きさ……。

私の手首よりも太くて長い。

口をどれだけ開けても入り切らない…

だから、まずは根元から先端まで

(フェラ開始)

――ぬちゅ、ぬる、じゅるっ……

(フェラ 5秒)

舌でずりずり這わせて、

接待みたいにナメナメするしかない……。

(舌で這いながら)

んっ……ちゅるっ、ちゅぷっ、ぬちゅ……

(フェラ 5秒)

ああ……舌

が伸びきっても、先端まで届かない……。

それでも必死に裏筋を

ぺろぺろ舐めて……

(フェラ 5秒)

ああ

デカちゃんぽ様が少しずつ角度をつけて、
むくむくと立ち上がってきて……。

……これじゃあもう、測定不能。規格外のSランクです。

(頭を掴まれ)

やだ……髪をぐしゃぐしゃにされて……

「もっとしっかりしゃぶれよ」って、

怒鳴られて。

私、教師なのに……生徒に叱られて……

(従うように)

必死に、

はい……はい……おちんぼしゃぶります。

(中・密着／じゅるじゅるSE)

じゅづっ、じゅるるっ、ちゅるるるっ……

(フェラ 5秒)

喉の奥まで届かないけれど、

唇をすりつけて、舌でぬるぬるさせて……

(フェラ 5秒)

じゅづっ、じゅるるっ、ちゅるるるっ……

「氷室 涼砂(ひむろ すずな)……25歳の処女まんこ教師」なのに……

アラランクのデカちゃんぽ様に奉仕する、

ただの口オナホにされて……。

（冷酷な声を重ねる）

「教師のくせに、フェラもまともにできねえのか」

——そう罵倒されて。

悔しい

（中・近／涙声）

情けない……。

私を……好きな生徒の前で…

Sランクのちんぽに怒られて

……必死に舐めさせられて……。

教師としても、

女としても、屈辱……。

（強く顔を擦りつけられ）

ああっ……

裏筋でゴリゴリされて……

私の頬、鼻筋、唇

……全部ちんぽの雑巾みたいに扱われて……。

顔が完全に、

デカちんぽのチリ紙代わり……。

……これが、Sランク様に

使われる女の現実なんですね……。

（中・近／荒い吐息）

ああっ

……顔にブルンツと

ちんぽ叩きつけられて……

（ちんぽで顔ビンタ）

んほ！

んほ！

んほ！

ちんぼ顔面ビンタ

……っ、何度も何度も……。

(復唱する感じで)

「もう口じゃ足りねえ、穴で奉仕しろって――」

(中・中 ゆっくり恐れる)

ちよつと……

やだ……やだあ……

お願いです、許してください。

この服を……脱がさないで……。

私……まだ、処女なんです……

(間を置いて／冷酷に諭す)

うう

ですが、わかっています。

制度に従うしかないので。

△ランクの特権ちんぼ様に命令されたら……

女は皆、

子宮を差し出さなければならぬ。

例外は一切ありません。

(中・近／涙声)

……20年以上守ってきた私の処女まんこ。

今、この場で……使われてしまう。

本当は怖い……震えが止まらない……。

(衣擦れSE)

ああっ……っいや……！

パンツまで脱がされて……

Eランクのそちん君の前で、

私の秘密の穴が……丸見えに……！

（中・中／絶望的に）

やだ……やだあ……。

Sランク様が

……私のおまんこに狙いをつけてる……。

閉じていた私の女教師の処女穴……

今、この巨根にこじ開けられようとしてる……。

（左・遠）

いいですか…

しっかり見ていてください

——あなたは

見ているしかありません。

先生は、

今からSランクちゃんぽ様に

処女を奪われるんです。

（中・近 復唱する感じで）

ああ……

粗チン君は、♡ランクのおちゃんぽ様に命令されて、

「先生のおまんこ処女没収を見ながらシコってろ」って——

そのままゴシゴシ、ゴシゴシ……

屈辱で顔を真っ赤にしながら、必死にオナってる。

（中・中）

先生も、今から……デカちゃんぽで

処女のおまんこ、

開通させられちゃう……。

こんなS級ちゃんぽ入れられたら……っ。

女は必ず負けますね…

(間を置いて／一気に)

—— おおっ……ッ！

んふおおお

ちんぽでかああ

いたあああ

オホ♡

おちんぼ様が

……処女膜を……ブッチン、ブッチン潰して……

(中・近／嗚咽混じり)

あああっ……はじまっちゃった……！

デカおちんぼ様に

……処女まんこ……セックス開始されちゃったあ……！

(中・近／震える声)

いやっ……いやあ……キツイ……っ！

おまんこ裂ける

……痛いのに

……ずんっ、ずんっ、

おまんこの奥まで突き抜けられて……

ああ

……粗チン君が目の前で……見てる前で……

私の処女、

特権ちんぼ様に……完全に貫かれてるの……っ！

(中・中／乱れ声)

だめ……そんな激しく腰をぶつけちゃ……っ！

処女まんこ、

ぐちゅぐちゅに掻き回されて……

ああ……

でも……きもちいい……これが……の級ちゃんぽ……っ♡

(中・近／嗚咽と嬌声が混ざる)
おおっ…………ずぶっ、ずぶっ…………

粗チン君は屈辱でシコシコ、シコシコ……

横でオナニーしてる音が聞こえる……

私はデカちゃんぽでおまんこゴシゴシされて……

(中・近／とろけた声)
おほっ…………オホ♡

まんこ…………壊れりゆうう…………♡

処女まんこ

…………完全に

…………デカちゃんぽ様に調教されちゃってるのぉ…………♡

(中・近／嬌声まじり)
おほっ

…………オホ♡…………オホオホオ♡

あああっ、

デカちゃんぽで

おまんこゴシゴシされると……

おまんこ広がりまくって

…………もう…………他のちんぽじゃ入らない…………♡

オホオホ声しか出ないのぉ…………っ♡

(中・近／嗚咽混じり)
くるしい…………っ！

でも…………ちんぽ…………きもちいい…………っ！

デカちゃんぽにお腹の中あゝ

ぐりんぐりん掻き回されて……

子宮がゴシゴシ削られて

…………オホッ、オホホ♡…………しゅいっのぉ…………♡

(中・近／狂ったように)

あああっ

……おちんぼ、

もっと……もっと子宮にぶつけてえ♡

これが

……△ランク……特権階級のおちんぼ……っ♡

人差し指と親指で、

しょぼいチンゴシしかできない粗チンとは

……次元が違う………！

(中・遠／軽蔑まじりに)

見てください、

粗チン君。

人前でちっちゃいおちんちんシコシコして

……クスクス笑われて……

ザーメンぼたぼた垂らすしか能がない。

あなたのせいで、

私の処女まんこは

——こうして本物に征服されちゃったの。

(中・近／とろけ声)

はあっ、ああ♡

ねえ

Sランクちゃんぽ様

……中、中にください………！

デカちゃんぽ様の濃いザーメン

……子宮にびゅっびゅって

中出しされて……孕ませてください………！

粗チンなんかのゴミ精子じゃなくて

……Sランク様の本物で孕みたいのお………♡

（左・密着／囁きながら絶頂）

おほっ

……オホオホオホ♡……いつちゃう、いつちゃう……♡

粗チン君が必死にシコってる横で……

私はデカちゃんぽ様に中出しされて

……処女まんこ……ザーメン漬けにされて……

おまんこイキましゅう……♡

おちんぽ、おちんぽ、

おちんぽ子宮小突かれて、

ああ来る、ああ来る、ああ来る。

おちんちん、ああ、いつくっ！

いぐううううう♡♡♡

おおっ！いった瞬間におちんぽ、

おまんこから出て行かれて、

びゅる、びゅる、びゅる。

私の体に大量ザーメンひねり出して、
外出ししちゃった。

（復唱する感じで）

お前みたいなの

ガリパいの雑魚教師には、

俺様の精子は早えんだよって、

外出しされちゃった。

（中・近）

ああ…

この変態！（怒）

粗チンオナニーで射精して、

何で先生の体に、

追加ぶっかけ射精してるんですか？

100mlを超えるお精子様に、
あなたの雑魚0.5ミリ量の
精子なんて吹っ掛けたって
全然効果ないのに、

何で先生の体に、

独りよがりな射精してるんですか

最低ですね。

でも…

わかりましたか。

これが特権階級。

女をいくらレイプしても

何のお咎めもないですから。

あなたも悔しかったら、

先生のこと使えるくらい、

立派にちんぼ、育ててみてください！

(トラック⑤)

(中・近)

ほーらー、

今からあなたと

スマタおセックスしますよ？

ですが

…おまんこに入れるのは禁止です。

デカちんぼ様の命令で、

ザコまんこもつと育てたら、

オナホ女の二軍から一軍に昇格させてやるよって

言われてるんですから、

あなたのちんぽで練習させてください

ほーら、

寝取られオナニーし過ぎで、

4センチ台になったゴミちんぽ。

私のおまんこにこすりつけて、
素股おセックスですよ？

ほーら、

ほーら、

今日は腰使いの練習ですから、
しっかり先生のおセックスの
練習台になってください。

ほら、この前デカちんぽ様に

開けられちゃった

おまんこの入り口で、

粗チンを

ゴシゴシ、ゴシゴシ、ゴシゴシ。

（中・近）

あなたと、スマタおセックスしてあげてますよ
大好きな先生にちんぽこすりつけられて、
うれしいですよね？

でも

——おまんこに入れるのは禁止。

（冷笑）

だって、

これはデカちんぽ様の命令なんです。

「そちんでおまんこ鍛えて来い、だけど絶対つかわせるな」って…

だから私は、

あなたの小さな粗チンを使って訓練するの。
でも、挿入は絶対禁止です

(中・中／煽るように)

ほーら、腰を振って。

上下に、こすり、こすり、こすり……。

私のまんこのヒダヒダとちんぽが擦れて、
みじめな水音がぬちゅ、ぬちゅ……。

情けないですね。

(中・近／囁き)

あなたはただの練習台。

私は“本物”に

抱かれるために腰づかいを磨いているだけ。

この前デカちんぽ様に

こじ開けられたおまんこの入り口で……

あなたの小さなちんぽを、

ゴシゴシ、ゴシゴシ、ゴシゴシ……。

(中・遠／突き放すように)

どうですか？

私がデカちんぽ様のために腰を振っている、
その下で……

あなたの粗末なモノはただ擦られて、

虚しく汗を垂らしているだけ。

(中・近／冷徹に)

良いですか？

もう一度、いいですけど、勘違いしないでくださいね。

先生はあなたとセックスがしたいわけではありません。

これは——ただ、デカちゃんぽ様の命令だから。
仕方なく、

この粗チンで“おまんこの鍛錬”をしているだけです。

（中・中／嘲笑）

あなたのおちんぽは、

絶対に先生の中には入れられません。

だって、これはもうㇿランク様の所有物。

一軍専用のおまんこなんですから。

ほら

……入り口で擦るだけ。

ちんぽこ

ゴシ、ゴシ、ぬちゅ、ぬちゅ……。

ただの素股。

挿入は永遠に禁止です

（中・近／鼻で笑う）

屈辱ですよね？

大好きな女をデカちゃんぽ様に寝取られて、

自分のちんぽはさらに小さくなって、

せいぜい

“入口で擦られる練習台”

にしか使ってもらえない。

でも

……それが、

あなたのEランクちんぽ公式な役割なんですよ。

（中・中／事務的に）

ちなみに昨日も、

デカちゃんぽ様の

ザーメンを一発いただきました。

一軍女子が

おこんこ使いつぶされたから
精子下ろしてもらったんです。

その一発で

……私のおまんこはすぐにイッてしまつて。

結局、一パツ射精するまでに

三回も絶頂させられてしまったんですよ。

(中・近／卑下するように)

ほーら、

この“閉じ切らないおまんこ”。

まだ奥にデカちゃんぼ様の残り香が残っているのに……

あなたの小さなちゃんぼを擦りつけて、

ビラビラでいじめてあげてるんです。

ぬちゅっ、ぬちゅっ、

ほーら

ゴシゴシ、ゴシゴシ……。

(左・密着／囁き)

こんなひどい扱いうけてるのに

それなのに…

うわごとのように

先生のこと

「好き、好き」なんて……。

寝取られて、

処女まで開通させられた女に執着するなんて……

あなたの頭、

本当におかしいんじゃないですか？

(中・密着／舌音まじり)
ほら

……おまんこゴシゴシしながら
……先生とドスケベなキス。
ちゅっ……ちゅるる……んちゅ……ぬちゅっ……♡
(キスフェラ 10秒)

舌と舌絡めて、唾液まみれのキス……。
ああ

……ザコちんぽ、もっとビクビクしてきた。

(中・近／甘く囁く)
出したいですか？

四ランクの雑魚ちんぽ……。
先生のおまんこの入り口で
……ビラビラに挟まれて……
寝取られ屈辱射精、したいんでしょう？

(中・近／ねっとりキス)
んちゅっ

……じゅるっ……れろれろ……♡

(フェラ 8秒)

ああ、
ファーストキス奪われちゃった……。

だったらせめて、
射精くらい一人前に見せてください。

(中・中／命令口調)
いきますよ

……ほら、数えてあげますから。
絶対に我慢なんてできませんよ？

——3……2……1……はい、出せ。

(中・近／笑い混じりに)

あああつ、出てる、出てる………！

ビクッ、ビュルッ、びゅっびゅっびゅっ………！

先生のおまんこの入り口で

……雑魚射精……情けなく、ザーメン漏らしてる……。

(中・中／突き放す)

ふふ、気持ちよかったですか？

入り口でゴシゴシされて、

濃厚なドスケベキスで誘われて……

結局は、

四ランクのまま……ザーメン廃棄。

——ねえ、どんな気分ですか？

(中・中／事務的に)

制度は絶対。

でっかいおちんぼ様には

女教師である私も従うしかない。

あなたのような粗チンは、

ただそれを横で見せつけられて、

屈辱を刻まれて

……それでようやく価値が生まれるんです。

(中・近／囁くように)

でも——もし。

もしもあなたのちんぼが、

いつか本当に大きくなって、

デカちんぼ様に並ぶことができたなら……。

そのときは、

先生のおまんこを差し出してあげてもいいですよ。

（左・密着／ささやき）

だから……夢を見るのは自由です。

小さな粗チンでも、努力を続ける限り……ね。

——ほら、

また明日も、

先生とスマタSEXして、

鍛えますよ

（中・遠／冷たく締める）

この国の制度は、

あなたのそちんを絶対に許さない。

でも、

それでも先生は見ていますよ。

あなたがいつまで夢を

見続けられるのか——ずっとね